

デンソー プレスカンファレンス

株式会社デンソー
代表取締役社長 林 新之助

おはようございます、デンソーの林でございます。本日はデンソーのプレスカンファレンスにお越しいただき、誠にありがとうございます。

長年多くの方に親しまれてきた東京モーターショーが、「ジャパンモビリティショー」と名称も新たに開催されておりますことを、大変うれしく思います。この変更は、「クルマ」という枠を越え、「モビリティ社会」という視点で広く課題を捉え、さまざまな産業の「人」と「技術」が「つながる」ことで、新しい価値を創っていく時代に突入していることを表しており、私たちには、大きなチャレンジが求められているのだと強く感じております。

「各国のエネルギー事情を踏まえながら、カーボンフリーなモビリティが行き交う社会」、「移動中に”運転”という制約から解放され、自分らしい時間の過ごし方ができる社会」、そして、「クルマと家、社会インフラの間で、再生可能エネルギーを相互に融通し合える社会」。

こうした社会の実現には、「クルマの中の全てのシステムがつながる」、「クルマとクルマがつながる」、「クルマと社会がつながる」こと、そして、確実につなげるためのハード・ソフト両面でのプラットフォームが構築され、その上で多様なニーズに応える製品やソリューションが提供されていることが必要であり、それらが実現された時、クルマはさらに進化を遂げ、クルマを社会システムの一部とする「モビリティ社会」が形成されていくと考えています。

デンソーは創業以来、クルマ社会が抱える課題に真正面から向き合い、課題解決のために新たな製品を開発し続け、広く自動車業界に貢献してまいりました。創業期には、国産車開発の難題であった電装品を開発することでクルマの信頼性を高め、モータリゼーションが本格化して以降は、クルマの負の影響を減らすための環境・安全規制を乗り越えられるシステム製品の開発に挑戦し、常にクルマの進化を支えてまいりました。

そういった数々の挑戦の中で私たちは、自動車業界の Tier1 として、「技術で夢を形にし、お客さまに貢献する」ことにこだわってまいりました。「形にする」とは、「コンセプトだけで終わらせるのではなく、自分たちの手で製品やシステムを具現化し、世に出せるレベルまで完成度を高める」ことを意味しております。今後、クルマからモビリティ社会にスコープが広がる中でも、こうした姿勢は変わりません。

業界を支える「自動車業界の Tier1」から、社会全体を下支えする「モビリティ社会の Tier1」へと進化し、より多様なお客さまの価値創造に貢献してまいります。

本日は、今後、デンソーが進めていく、大きく3つのチャレンジについてご紹介します。1つ目は、クルマの中のシステムとシステム、あるいはクルマとクルマをつなぐことによる、「モビリティの進化」への貢献。2つ目は、モビリティで培った技術を社会全体の価値へとつなげる、「新価値創造」への挑戦。そして3つ目は、新たなソリューションを生み出す基盤技術、「半導体とソフトウェアの強化」です。それらを通じて、「環境」「安心」の価値最大化を実現してまいります。

1点目は、「モビリティの進化」です。

「環境」領域では、これまで、電動車の基幹製品であるインバーター・モータージェネレーター・電池監視シス

テムの技術革新に努めながら、HEV・PHEV・BEV・FCEV 全てに搭載できる形で、水平方向の品揃えを強化してまいりました。今後は、電動化製品とエネルギーマネジメントを連携させた大規模システムから、パワーモジュールといった部品まで、垂直方向での品揃えも拡充することで、BEV 普及期の多様なお客さまのニーズに応え、世界各国のカーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

また「安心」領域では、クルマの周囲を監視するシステムに加えて、車室内のドライバーの状況を監視するシステムや、社会インフラと連携するクラウドベースの大規模なシステム開発にも注力してまいります。こうした取り組みにより、各国の交通事故シエンカバー率を高め、交通事故死亡者ゼロを目指してまいります。

さらには、モビリティの進化への取り組みを、モーターやインバーターの供給という形で、空にも広げ、より自由な移動の実現、モビリティの可能性の拡張に貢献してまいります。

2 点目は、「新価値創造」への挑戦です。

現在、エネルギー、食農、サーキュラーエコノミー領域など、モビリティ以外の領域でも数多くの技術開発や事業化の検討を進めています。

その大きなチャレンジの一つとして「水素ビジネスへの参入」を進めてまいります。具体的には、現在デンソーの工場で実証実験を進めている「電気から水素をつくる SOEC(Solid Oxide Electrolysis Cell / 固体酸化水素形水電解用セル)」と、「水素から電気をつくる SOFC(Solid Oxide Fuel Cell / 固体酸化水素形燃料電池)」といったエネルギーシステム製品を来年以降、市場投入したいと考えております。水素を核に、産業界をつなぎ、さまざまなエネルギーをつなぐことで、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献してまいります。

3 点目は、「半導体とソフトウェアの強化」です。

半導体では、2030 年までに約 5,000 億円に上る積極投資を進め、2035 年には事業規模を現在の 3 倍へと拡大してまいります。また、生産拡大には材料の安定調達が不可欠であり、さまざまな企業との戦略的パートナーシップを構築してまいります。

BEV とソフトウェア・ディファインド・ビークルの進展に伴い、今後のソフトウェア開発は、これまでの基本設計フェーズから製品化につなげる実装フェーズに移行してまいります。実装フェーズでは、さまざまなお客さまとのパートナーシップを強化し、企業の垣根を越えた一体開発を進めることで、ユーザーニーズを起点とした電子プラットフォーム企画や OTA 技術開発等を加速してまいります。体制面では、ソフトウェアエンジニアの質・量の強化に加え、デンソーグループの「半導体 IP 開発会社 NSITEXE(エヌエスアイテクス)」と「車載ベーシックソフトウェア開発会社 AUBASS(オーバス)」をデンソーに合併し一体となることで、より付加価値の高い統合システムの開発を強化するとともに、車載ソフトウェアで培った知見や経験を織り込んだ特化型 AI を開発に導入することで、ソフトウェアの開発スピード 2 倍を実現してまいります。加えまして、半導体、ソフトウェアにおいては、外販やソリューションビジネス化へのチャレンジも想定しながら、技術力に磨きをかけてまいります。

以上の取り組みを進めていくにあたり、要になるのは人財です。

「人財ポートフォリオの変革」を大胆に進めてまいります。具体的には、電動化とソフトウェア領域へ、社員採用および、成熟領域からの人財シフトなどを進め、2022 年から 2025 年までの 4 年間で計 4,000 名の人財を増強してまいります。

本日ご説明申し上げましたことは、デンソー1社では決して成し得ません。自動車業界のみならず、他業界の皆さまとの共創が不可欠です。今回のジャパンモビリティショーでは、「オールジャパン、みんなで一緒に未来を

考える場」というコンセプトを掲げています。日本には古くから、異質なものを受容し、調和させ、価値あるものを生み出してきた歴史と文化があります。デンソーが、これまで培ってきた「お客さまの真のニーズを理解する力」「最適なアーキテクチャーを設計し、リアルに実現する力」をより進化させることで、「モビリティ社会の Tier1」として、パートナーをつなぐ架け橋になれると考えております。

幸福感とワクワク感に満ちあふれた「未来のモビリティ社会」。デンソーは、多くの企業の皆さまと共に、そんな未来を創り上げてまいります！

ご清聴、ありがとうございました。

以上